

# 〔協立病院 一般内科〕

## 【研修内容と特徴】

臨床医に求められる知識、技能、態度を身に付け、患者の診療に必要な臨床的能力を修得する。  
また、患者の問題を全人的にとらえ、患者および家族との良い人間関係が確立できるように指導する。

当科は救急疾患、内科疾患全般、さらに消化器疾患を特に専門的に治療している。

消化器科：消化器疾患の病態と特徴を理解し、的確な診断・治療ができるように指導する。

## 【研修の実態】

### 1. 研修期間と受入人数

1年次必修研修、2年次選択研修ともに、3ヶ月を1単位として研修する。

3ヶ月毎に2名まで受け入れる。

### 2. 病棟における研修

研修医は病棟指導医とともに受け持ち患者を数名担当する。

患者への問診。臨床所見の取り方、検査法の修得と診断、治療の実際などを研修する。

回診では症例の問題を整理し、プレゼンテーションを行う。

### 3. 外来における研修

週に一度、部長とともに外来診察を行い、問診、診察方法を修得する。

救急患者が搬入されれば、救急当番の指導医とともに診療に参加する。

夜間は、指導医とともに内科救急当直につく。

## 【教育に関する行事】

月 午前 外来診療

火 午前 胃内視鏡検査 午後 大腸内視鏡検査

水 午後 症例検討、臨床抄読会

金 午後 総回診

## 指導医等

内科部長：西原 当裕

内視鏡センター長：加藤 恭一

医 員：山口 晃良

## 研修実施責任者

内科部長：西原 当裕

## 〔協立病院 循環器科〕

### 【研修内容と特徴】

心臓カテーテル、心エコー、頸動脈エコー、運動負荷心電図、電気生理学など、臨床検査としては、アイソトープ検査を除いては大学病院と同等の検査を行っている。経皮的冠動脈形成術（P C I）も毎年160例程度施行しており急性冠動脈疾患への対応や院外心臓血管外科の連携も行い、オンコール体制をとっている。C C Uは5床を持ち、虚血性心疾患や重症心不全の治療を行っている。ペースメーカー植え込み術も毎年50例程度植え込みを行っている。問診、聴診、心エコー、トレッドミル等のプライマリーな技術獲得を目標とする。カテーテル検査やP C I及びペースメーカー植え込み術のような侵襲的な手技は指導医のもとで参加する。

また、チーム医療のリーダーとして、看護師やコ・メディカルとのコミュニケーション力も研修として重視している。

### 【研修の実際】

#### 1) 研修期間と受け入れ人数

必修研修、選択研修ともに、3ヶ月を1単位として研修する。3ヶ月ごとに1名まで受け入れる。

#### 2) 病棟における研修

指導医の許で患者を担当する。診療は全て担当医として行う。

#### 3) 救急外来における研修

救急外来に救急搬送される患者が多いので救急当番医と一緒に処置にあたる。

### 【教育に関する行事】

月 回診 医局カンファレンス 医局合同症例検討会（1/M）

水 心血管造影検査読影 内科カンファレンス

金 病棟循環器カンファレンス（多職種参加型）

心エコーは読影は毎日。病棟における行動抑制カンファレンス等の参加は随時。

### 指導医等

部長：小林 克弘

医員：後藤 秀樹

医員：和久 幸子

医員：木村 紀久

### 研修実施責任者

部長：小林 克弘

## 〔協立病院 一般外科〕

### 【研修内容と特徴】

- ① 当院は消化器外科を主に地域に於る二次救急の中心に位置付けられている。
- ② 総合的な外科診療を行う能力を身につけること
- ③ 外科的治療を行うにあたり患者及び家族に対する十分な説明を行う能力を修得する
- ④ 各種外科疾患に対する診断及び治療を計画、実行できる能力を修得する。
- ⑤ 術前術後管理、術後補助化学療法等の修得を目的とする。
- ⑥ 診断に関して超音波診断、上下部消化管造影、内視鏡診断の技術を修得する。
- ⑦ CT、MRI、超音波検査、血管造影などの画像診断に対する能力を高める。
- ⑧ 外傷及び消化器外科の救急に対するプライマリーケア、緊急処置、緊急手術に対応できる能力を修得する。

### 【研修の実際】

#### 1. 研修期間と受け入れ人数

2年次必修では2ヶ月、2年次選択では6ヶ月を1単位として研修する。受け入れ人数は1名とする。

#### 2. 病棟における研修

研修医1名に対し指導医1名がマンツーマンで指導を行う。指導医とともに一部の患者では担当医として診療を行う。術前検討会では受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。

#### 3. 外来における研修

週1回指導医とともに外来診療を行い、問診、診察、検査指示を行う。

#### 4. 救急診療

救急当番医とともに救急処置を修得する。夜間は2週間に1度指導医とともに当直業務にあたり救急処置を修得する。

### 【教育に関する行事】

月	午前：外来診察	午後：手術、X線透視下検査治療
火	午前：部長回診、超音波検査	午後：手術、術前術後検討会
水	午前：院長回診	午後：手術、X線透視下検査治療
木	午前：部長回診	午後：手術、病棟カンファレンス
金	午前：内視鏡検査、外来診療	午後：手術、X線透視下検査治療

### 指導医等

部長：松下 一行      医員：大岩 寛治      医員：吉田 康彦  
医員：福永 渉

### 研修実施責任者

部長：松下 一行

## 〔協立病院 整形外科〕

### 【研修内容と特徴】

当科は、日本整形外科学会専門医制度による研修施設に認定されており、常勤医師5人が専門医の資格を有している。スタッフが得意にしている分野は、関節外科、手の外科、スポーツ整形外科、外傷などだが、扱っている疾患は圧倒的に外傷が多く、手術もその大多数が骨折を対象にしたものである。

- 1) 外来は、患者さんとの一番最初の接点である。問診および基本的な診察を行い迅速に診療計画を練る必要がある。すなわち、更なる検査のオーダーや入院の可否、手術適応等もこの時点で決定することを求められる。問診、理学所見の取りかた、X線やMRI、CT像の読影などに習熟し、診療計画を練ることを目標にする。更に、脱臼や骨折の整復やギプス固定などの技術を身に付ける必要がある。
- 2) 病棟での業務では、きちっとした治療計画を立て、日々の患者の変化に敏感に対応する能力が求められる。
- 3) 手術適応患者に対しては、術式の選択に必要な知識を身に付け、更にそれを患者に十分説明し理解納得していただく必要がある。

### 【研修の実際】

1. 研修期間は研修者の希望に応じて1～3ヵ月とする。

外来研修：問診、理学所見の取りかた、X線の読影と治療計画の練り方を習得し、それを患者に説明する。また、救急患者への対応も習得する。

病棟研修：入院患者を受け持ち、治療計画を立て経過観察を行う。

手術研修：受け持ち患者を中心に術者もしくは助手としての指導を受ける。

2. 骨折、脱臼の整復やギプス固定などの技術を身に付ける。

### 【研修の実際】

月	午前：外来診察、手術	午後：カンファレンス
火	午前：外来診察、手術	午後：手術
水	午前：外来診察、手術	午後：手術
木	午前：外来診察、手術	午後：手術
金	午前：外来診察、手術	

### 指導医等

部長：佐々木 聡      医 長：太田 一威      医 員：山中 西佳倫  
医 員：久保 伸之

### 研修実施責任者

部 長：佐々木 聡

# 〔協立病院 眼科〕

## 【研修内容と特徴】

眼疾患は独自の病態だけでなく全身疾患の合併症としても重要であり、視力の損失は患者のQOLを著しく損なうため、臨床医として正しくそれを診断し、加療を行なうことができるように知識と技術を修得する必要がある。

### 1) 眼科一般検査

視力・視野検査などの測定法と細隙顕微鏡、眼底鏡を使用した診察法。

### 2) 前眼部疾患

結膜炎（感染性・アレルギー性）、白内障、緑内障、ぶどう膜炎の正しい診断と治療。

### 3) 網膜硝子体疾患

糖尿病網膜症、網膜動脈または静脈閉塞症、加齢黄斑変性症の診断と治療。

### 4) 神経眼科疾患

視神経炎、甲状腺眼症、眼瞼下垂、外眼筋麻痺、眼瞼痙攣の診断と治療。

### 5) 救急疾患

穿孔性眼外傷、眼窩吹き向け骨折、視神経管骨折の診断と治療。

## 【研修の実際】

### 1. 研修期間と受け入れ人数

3ヶ月を1単位として研修する。3ヶ月ごとに1名まで受け入れる。

### 2. 外来における研修

研修医1名につき指導医1名がつき研修を行なう。

指導医とともに外来診療をおこない診察や診断の方法を修得する。

### 3. 手術室における研修

研修医1名につき指導医1名がつき研修を行なう。

清潔の概念と手術方法を見学して修得する。

### 4. 病棟における研修

研修医1名につき指導医1名がつき研修を行なう。

ベットサイドにて問診、臨床所見の取り方、検査法を修得する。

## 【教育に関する行事】

月	午前：一般外来	午後：検査一般
火	午前：一般外来	午後：手術
水	午前：一般外来	午後：検査一般
木	午前：手術	午後：手術
金	午前：一般外来	午後：検査一般
土	午前：病棟回診	

## 指導医等

部長：宮浦 卓

## 研修指導責任者

部長：宮浦 卓

# 〔協立病院 泌尿器科〕

## 【研修内容と特徴】

泌尿器科的疾患を正確に診断し、適切に処置、管理できるための基本的知識と技能を習得する修練を行う。

- 1) 泌尿器の理学的検査やレ線検査等を理解し、その手段を習得する。検査結果から正しい診断結果を導くトレーニングを行う。
- 2) 前立腺生検や尿管ステント留置、経皮的腎瘻造設などの手技の理解と習得を目指す。
- 3) 泌尿器の手術的治療法、E SWL（腎・尿管結石破砕装置）の知識、手技を習得し術後管理のトレーニングを行う。

## 【研修の実際】

### 1. 研修期間と受け入れ人数

3ヶ月を1単位として研修する。3ヶ月ごとに1名受け入れる。

### 2. 外来における研修

週に1～2度、指導医とともに外来診療に従事して問診、診療方法、エコー及び膀胱鏡検査、泌尿器科的処置を修得する。

### 3. 研修指導医とともに、レ線検査（IVP、RP、UCG、CG、等）、尿管ステント留置、尿道ステント留置、経皮的腎瘻造設、前立腺生検、E SWL等の手技の修得に努める。

### 4. 手術における研修

手術に立会い指導医の指示の下に助手としての役割をはたす。

### 5. 病棟における研修

担当医として患者を受け持ち、指導医の下で問診、理学的所見の取り方、カルテ記載、検査の実際、術後管理等を研修する。

## 【教育に関する行事】

月	午前：外来	午後：手術
火	午前：外来（E SWLを含む）	午後：検査・処置 カンファレンス
水	午前：手術	午後：検査・処置
木	午前：外来（E SWLを含む）	午後：手術
金	午前：外来	午後：検査・処置 カンファレンス

## 指導医等

部長：近藤 宣幸      医員：梶尾 圭介      医員：東郷 容和

## 研修実施責任者

部長：近藤 宣幸

## 〔協立病院 放射線科〕

### 【研修内容と特徴】

- ① C T、M R I、X - T V各種造影検査の基本的な手技の習得
- ② 各種画像診断の能力を高める
- ③ A n g i o、T A E等の技術の修得
- ④ 救急患者に対する緊急処置の修得

### 【教育に関する行事】

月～土まで午前午後ともC T、M R I、消化管、I V Pなどの読影を中心に行う。

火 午後I V R検査 外科合同カンファレンス

水 内科との合同カンファレンス

木 午前 上部消化管内視鏡検査

### 指導医等

部 長：山本 泰子

### 研修実施責任者

部 長：山本 泰子